

戦後の高度経済成長を支えた道路交通は、一方で、交通事故、交通渋滞、環境汚染等の深刻な社会問題を引き起こした。これらの諸問題に対して、人と道路と車を情報通信網でつなぎ、これらの課題を解決する高度道路交通システム（Intelligent Transport System (ITS)）の整備が世界各国で提案されてきた。日本の ITS は、先端的な成功例の一つである。本論文は、日本の ITS の進展の歴史を分析して成功要因や特長・強み等の知見を導き出し、日本の ITS の更なる進展に貢献しようとするものであり、「ITS の歴史分析に基づく日本の ITS の推進方策に関する研究」と題され、7 章より構成されている。

第 1 章は、「序論」と題し、研究の背景、意義、目的、構成などについて述べている。

第 2 章は、「従来の研究のレビューと本研究の方法」と題され、政府主導の ITS の推進方策と地域の ITS の推進方策に関する研究論文をレビューしている。政府主導の ITS プロジェクト等に関しては、①推進体制上の問題点、②日本の ITS が先行している分野、③ITS の特質が持つ実用化の壁、②ユーザー視点と社会実験の重要性などに着目し、地域の ITS にかんしては、①地域の連携・協働の「場」づくり・「プラットフォーム」づくり・「人」づくり、②ITS 施策のパッケージ・アプローチ、③地域社会構想や ITS まちづくりとの連携、④社会実験の継続等の地域での ITS の展開方策等を検討している。

第 3 章は、「ITS の全体像と進展の歴史」と題され、ITS の推進方策を考察するため、ITS の全体像を明らかにするとともに、その進展の歴史を調査して基礎資料を作成している。

第 4 章は、「日本の ITS の成功要因と特長・強みの分析」と題され、分析を行い、日本の ITS の成功要因は、「①政府主導の産官学連携の推進体制と②民間企業の活力・技術力、並びに③IT 戦略と道路交通政策の連携推進」であるという仮説を立て、それを出発点として、ITS の進展に貢献した成功事例を抽出し、その分析を通じて成功要因と日本の ITS の特長・強みを明らかにした。

第 5 章は、「地域 ITS の推進方策の考察とその展開」と題し、普及の遅れている地域 ITS を早期に普及させるための要件を、政府主導の ITS と地域 ITS との比較分析や日本の ITS の成功要因や特長・強みの地域 ITS への適用、また、従来研究の地域 ITS の展開方策の活用等により導き出している。

第 6 章、「今後の ITS の推移方向と推進方策」では、新たなステージに立った日本の ITS のこれからの推進方向と推進方策について考察している。日本の ITS の今後進めるべき方向として、第 4 章の成功事例の分析から、①地域 ITS の積極的推進と②道路交通による社会的損失の削減、③日本の ITS の競争力強化のための国際標準化活動と ITS の海外展開、④高度情報通信ネットワーク社会への対応、を提案している。

第 7 章は、「結論」であり、本研究で得られた成果を要約するとともに、残された課題を述べている。

以上これを要するに、本研究は、日本の ITS 推進の歴史分析により、日本の全国的な ITS の成功要因と特長・強みを見つけ出し、地域固有の交通問題に適用して地域固有の ITS の早期普及を促進したり、今後諸外国に適応するための指針を抽出したりし、日本の ITS の更なる進展への提言を行っており、学際情報学に貢献することが少なくない。

よって本論文は、博士（学際情報学）の学位請求論文として合格と認められる。